タイトル

災害！？　そんなのへっちゃら☆

提案するテーマ

きたる南海トラフや災害によって、人が県外に流出しないよう、
私たちができることを提案する。

内容の概要

2011年　高知県へ東北の人達が入ってきている？

↓

これは、2011年に起きた東日本大震災が関連しているのではないだろうか

↓

しかし一方で、高知県の転出数は増加している

↓

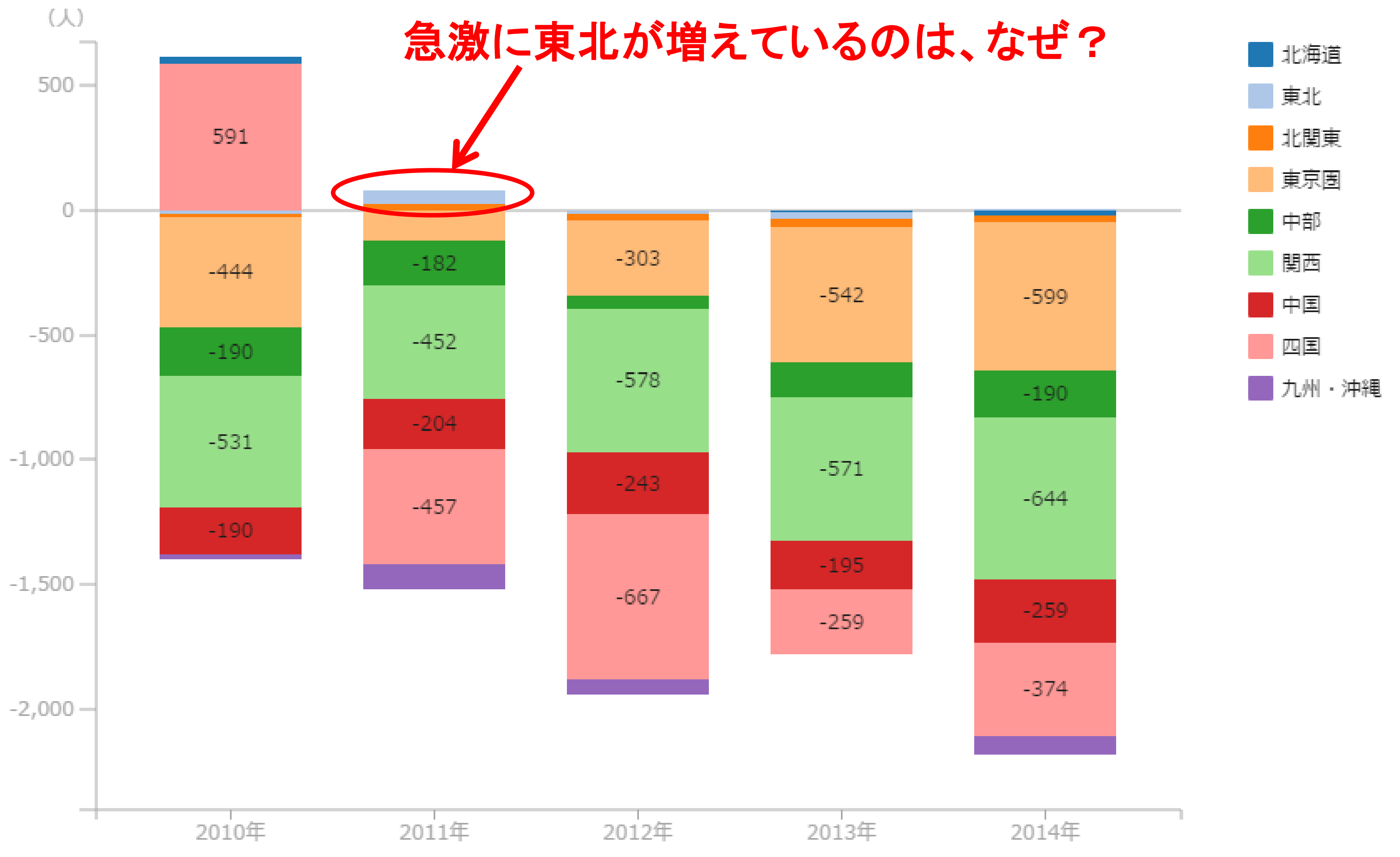
それは、高知県で発生する
南海トラフが関係しているのでは、ないのだろうか

↓

だから、高知県の南海トラフの被害について調べ、
そのことについて対策をまとめ、
安全性を確かめてみることにした！

高知県の人口の社会増減

高知県　地域ブロック別純移動数



なぜ！？

2011年に何かがあったのでは………？

東北大震災があった

つまり地震が影響して、高知県への避難者が増えた！

南海トラフ地震がおこったら、県外に避難せんといかんが？

南海トラフが不安！？

＜南海トラフへの不安を調査＞

～ 大人たちは･･･ ～

・いつ来るのかわからない

・海際にいるとき　(津波の不安)

・スマホがあるかないか　(連絡手段　等)

・救援物資が届かない

・高齢者をどう救うか？

　どの様なお世話をしたらいいの？

こどもたちの不安！？

＜南海トラフへの不安を調査＞

～ こどもたちは･･･ ～

・家が倒壊しないか　　・お金が無くなる

・避難対策できてないこと

・避難場所が分からない

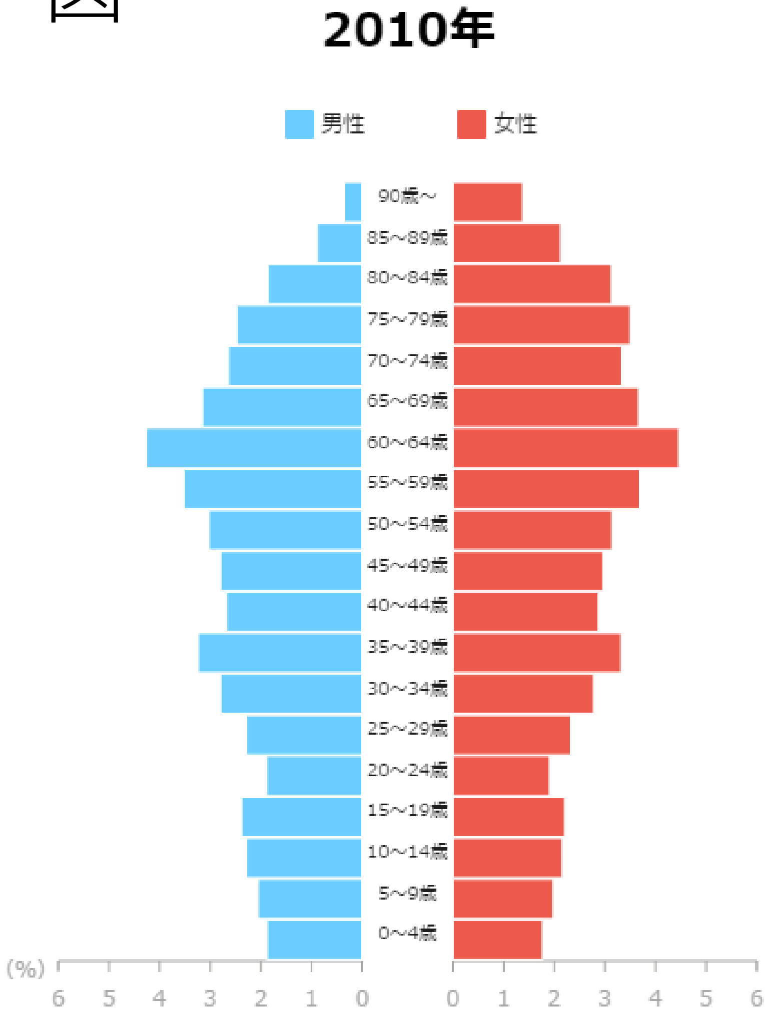
・地震にあったことない･･･どうするの

・避難後の生活はどうなる･･･

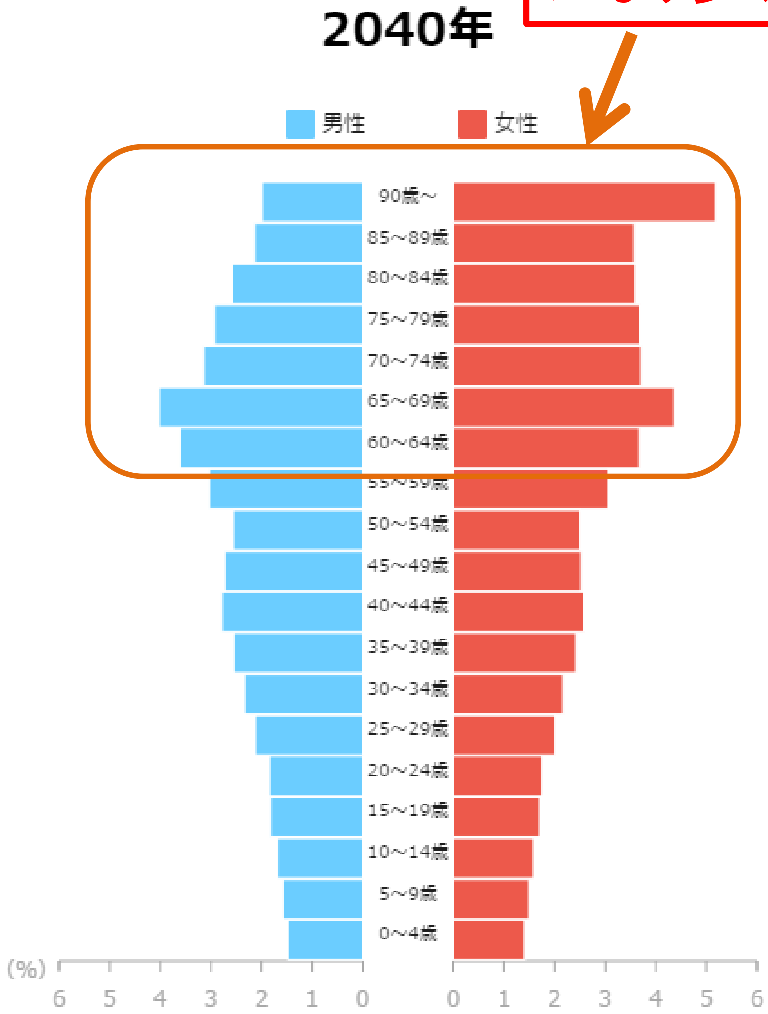
高齢者と一緒に生活できるのかな？

高知県　人口ピラミッド　予想図

地震が起きるころには高齢者の人数がかなり多くなっている



老年人口（65歳以上）：218,148人（28%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：447,540人（58%）
年少人口（0歳～14歳）：92,798人（12%）



老年人口（65歳以上）：219,575人（40%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：267,405人（49%）
年少人口（0歳～14歳）：49,534人（9%）

こどもや高齢者は南海トラフに対応できるのか？

（４） 被害想定項目

高知県の被害想定

1 建物被害想定
- 1.1 揺れによる全半壊棟数
- 1.2 液状化による全半壊棟数
- 1.3 津波による全半壊棟数
- 1.4 急傾斜地崩壊による全半壊棟数
- 1.5 地震火災による焼失棟数
- 1.6 津波火災による被害様相
- 1.7 ブロック塀等の転倒箇所数
- 1.8 自動販売機の転倒箇所数
- 1.9 屋外落下物の発生数

2 人的被害想定
- 2.1 建物倒壊による死傷者数
- 2.2 津波による死傷者数
- 2.3 急傾斜地崩壊による死傷者数
- 2.4 火災による死傷者数
- 2.5 ブロック塀等の転倒による死傷者数
- 2.6 自動販売機の転倒による死傷者数
- 2.7 屋外落下物による死傷者数
- 2.8 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による死傷者数
- 2.9 揺れによる建物被害に伴う要救助者数（自力脱出困難者）
- 2.10 津波被害に伴う要救助者数・要捜索者数

3 ライフライン施設の被害想定
- 3.1 上水道施設の断水人口
- 3.2 下水道施設の機能支障人口
- 3.3 電力施設の停電軒数
- 3.4 通信施設の不通回線数
- 3.5 ガス施設の供給停止戸数、要点検需要家数

- 4.2 鉄道施設の被害箇所数
- 4.3 港湾施設の被害箇所数
- 4.4 空港施設の被害様相

5 生活支障の被害想定
- 5.1 避難生活者数
- 5.2 避難所へ避難する災害時要援護者数
- 5.3 帰宅困難者数
- 5.4 物資不足量
- 5.5 医療機能支障による要転院患者数・医療受療過不足数・日常受療困難者数
- 5.6 保健衛生等の被害様相

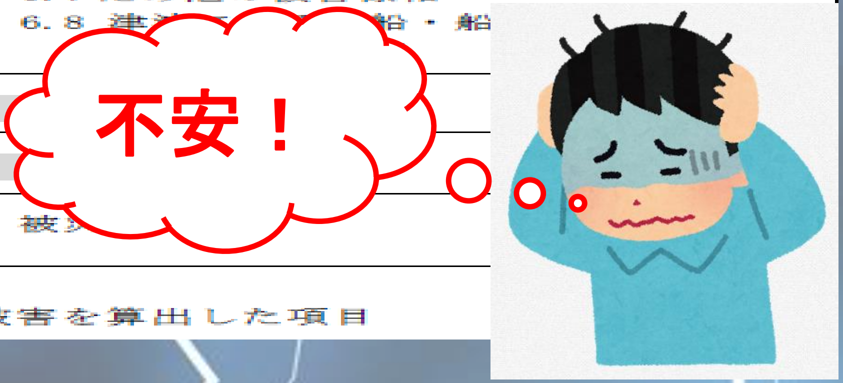
6 その他の被害想定
- 6.1 災害廃棄物等の発生量
- 6.2 閉じ込めに繋がりうるエレベータ台数
- 6.3 危険物施設の火災、流出、破損箇所数
- 6.4 孤立集落数
- 6.5 応急活動支障（すぐに使用可能な施設数等）
- 6.6 地盤沈下による長期浸水面積
- 6.7 ため池の被害様相
- 6.8 津… 船・船…

7

8

9 被…

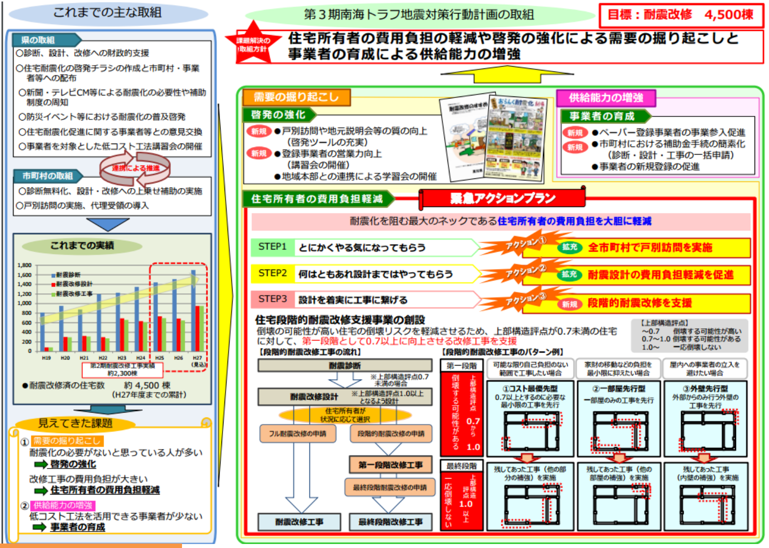
※灰色：定量的な評価を実施した項目
　黄色：定量的な評価に加え、市町村毎の被害を算出した項目



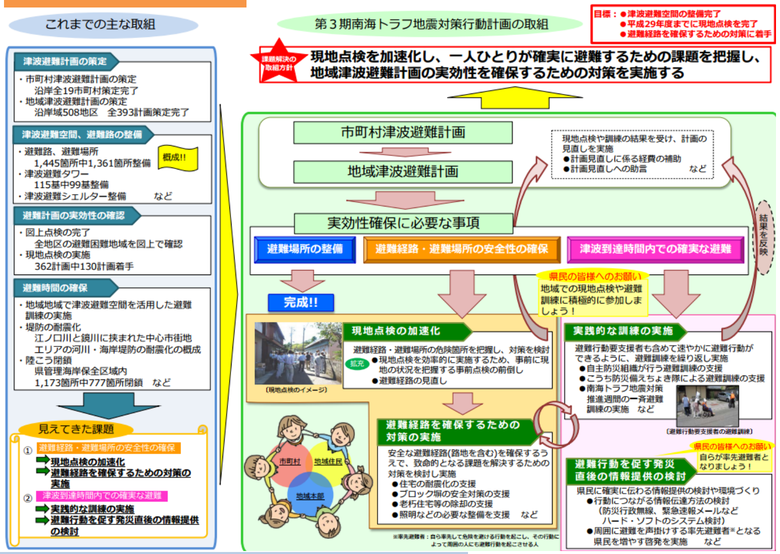
高知県はすでに対策をしているのだが・・・・

(高知県のホームページ参照)

土木部



危機管理部(1)



危機管理部(2)

危機管理部・水産振興部・土木部

さらに

こどもや高齢者に

安心感をもたせる

私たちが、高知県の防災対策を考えてみた！

私たちが思う必要なこと！

- 若者が高齢者を助けるために、地域の方との信頼関係が必要！
- 地域の方たちの心の安心をどう確保するか！
- 避難者への安全・安心をいかに提供するか！

私たちの提案

①高校生が主体となり地元住民と防災訓練(配給訓練・避難経路 等)を授業で行う

②避難場所である学校を憩いの場にする

具体的手立て1

【 学校の教科に防災科目を設置 】

- 地域のこどもと高齢者の参加者を募り、月１回程度、土曜日に「防災の授業」を実施する

（先生は地域の人材を活用する）

- 学校の体育館等で、地域住民と一緒に１泊２日の防災合宿を行う（計画は高校生が行う）

※この予算は、県と市町村役場が折半する

広報は市町村役場と学校が協力して行う

具体的手立て2

【学校を憩いの場にする】

不安解消！

各季節ごとに、学校の食堂を開放し「防災食堂」を開く（土日を活用する）

- 食材は備蓄されている非常食を活用する
- メニューは地域の高齢者が考える
- 食事はお年寄り、こども、高校生が班をつくって交流しながら食べる

※この予算は、県と市町村役場が折半する

期待される効果は！

◆高知県は「安心・安全」の県であることを、多くの県民（こどもやお年寄り）に知ってもらえる。

◆助け合いの心を育む、防災教育を行うことで、将来の高知県を担う人を育てることができる。

↓

高知県に住みたい人が増える！